【　　】

氏名	瓦　家　正　志
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第３９０２号
学位授与の日付	平成１６年３月２５日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第４条第２項該当）
学位論文題目	Evaluation of various cytological examinations by bronchoscopy in diagnosis of peripheral lung cancer （気管支鏡検査による肺癌診断率向上の試み）
論文審査委員	教授　吉野　正　教授　清水　信義　教授　平木　祥夫

学位論文内容の要旨

気管支鏡検査による肺癌の診断率向上のため、種々の検体採取法の有用性について検討した。1984年から2000年の17年間に最終的に末梢型肺癌と診断された1372例を対象とした。気管支鏡検査を実施し、鉗子生検組織診、捺印細胞診、ブラシ塗抹細胞診、鉗子洗浄液細胞診、ブラシ洗浄液細胞診、回収液細胞診等を行いそれらの診断率について検討した。診断率は鉗子生検組織診のみでは76.9%であったが、捺印細胞診を追加することで84.8%($p<0.0001$)に有意に向上した。また、鉗子生検組織診に捺印細胞診及び鉗子洗浄液細胞診を追加することで診断率は86.2%($p<0.0001$)に有意に向上した。最終的な気管支鏡検査による診断率は検体採取方法を組み合わせることで93.4%であった。

以上の結果から、捺印細胞診、鉗子洗浄液細胞診、ブラシ洗浄液細胞診は肺癌の診断率向上に有用な検査方法であることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、肺癌の診断率向上のため気管支鏡による検体採取法について検討したものである。末梢型肺癌 1372 例について各種検体採取と診断率を算定した。鉗子生検組織診に加えて、検体の捺印細胞診、鉗子洗浄液細胞診を行うことで正診率を有為に向上することが判明した。鉗子生検単独での診断率 76.9%は、この 3 種類の検査を組み合わせることにより、93.4%となった。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、このような方法論を選択する科学的に重要な知見を得たものとして価値のある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。